

内幸町2-1-4  
@tokyo-np.co.jp  
通信局・部  
武蔵野 0422-43-2134  
八王子 042-656-2313  
町 田 042-728-6655

購読のお申し込み  
0120-026-999  
配達・集金お問い合わせ  
03-6910-2556  
広告のご用命  
03-6910-2489

諸願祈願  
**鹿野山神野寺**  
☎ 0439(37)2351

# 東京

## 江戸野菜

# 復活目指す「幻のナス」

東京の新名所として二〇一一年度開業を目指す新タワーの地元、墨田区東向島で、江戸野菜の寺島ナスを復活させるプロジェクトが進んでいる。寺島ナスはちよっと小ぶりのわせナス。

江戸期に寺島と呼ばれた当地で作られ、初物好きの江戸っ子の人気を集めた。今では栽培されていない「幻のナス」だ。  
「今は知らない人が多いが、昔は野菜栽培が盛んだった」。地元在住の区教育委員で、成蹊大特任教授、高木新太郎さん(左)が昨春、東向島の商店主らのまちおこし会議で提案したのが始まりだった。東向島駅前商店会長の坂本武彦さん(右)は、地名がついたナスに「きつと話題になる」と飛び付いた。

委員で、成蹊大特任教授、高木新太郎さん(左)が昨春、東向島の商店主らのまちおこし会議で提案したのが始まりだった。東向島駅前商店会長の坂本武彦さん(右)は、地名がついたナスに「きつと話題になる」と飛び付いた。

坂本さんは、東向島の白鬚神社に寺島ナスの説明板と、漬物などにして売り出したいと期待する。  
置者のJA東京中央会(都農協同組合中央会)に相談。茨城県の研究機関に寺島ナスと同種とみられる蔓細千成の種が保存されていることが分かった。「い

研究会の代表でもある。江戸野菜とのかかわりは、職員時代の一九九二年に「江戸・東京ゆかりの野菜と花」の編集を担当し、出版してから「本で記録するだけでは物足りない」と、

ゆかりの土地に説明板を立てた。寺島ナスもその一つだった。地域おこしと絡め、亀戸ダイコン(江東区)などの地元栽培も応援した。

活動の原点は、編集に携わった冊子「子供たちに残したい身近な自然」にさかのぼる。都市に農地はいらないとする農地への宅地並み課税に反対する運動の一環で、中央会が八一年に発行した。職員として反対運動の先頭に立つ中で、癒やしや子どもの自然教育、災害時の避難場所など都市の中で残された緑として農地

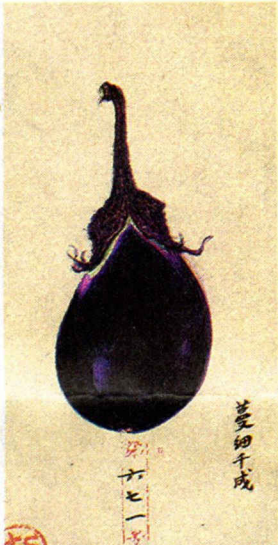
## 「緑の都」を夢見て (3)



研究会代表 **大竹 道茂さん**

江戸野菜 江戸期には近郊農業が盛んで、滝野川ゴボウ(北区)や早稲田ミョウガ(新宿区)など50種以上が作られていた。現在、都内で栽培されているのは小松菜(江戸川区)、練馬大根(練馬区)、千住ネギ(葛飾区)などごく一部で、大半は栽培されていない。

寺島ナスとみられる蔓細千成の細密画(都農林総合研究センター提供)



(松村裕子)

が果たす役割の大きさを訴えた。「農地を守ろうと口を酸っぱくして言っても、農家でない人の気持ちにフィットしにくかったが、冊子には反響があった」と振り返る。

江戸野菜を作っても現状では収益性が低く、農地の保存に直結するわけではない。商店主ら農家でない人が江戸野菜をまちおこしに使うことで農業に関心を持つきっかけになる」と語る。子どもたちに身近な自然の代表格である農地を残したい」。大竹さんにとつては江戸野菜の復興活動もこの思いを実現するための一手段。「寺島ナスもぜひ復活してほしい」とエールを送っている。